

授業科目 看護理論特論 (CNS コース)	科目概要・形式 2単位30時間(15コマ) 講義科目	配当年次 博士前期1年次 前期開講	オンライン参加 <input checked="" type="checkbox"/> ・不可 (下記6,7参照)
科目責任者	福井 幸子		
担当者	福井 幸子、角濱 春美、鳴井 ひろみ、出貝 裕子、谷川 涼子、清水 健史		
1. 科目のねらい・目標			
専門的看護実践の根幹となる看護の概念枠組みを理論的に構築するため、あるいは既存の看護理論・看護モデルを看護実践・看護教育および看護研究に活用するため、①看護理論の構造、②代表的な看護理論の理解、③ 看護実践への理論の活用などの内容について学ぶ。			
2. 授業計画・内容			
<p>看護理論の大理論および中範囲理論を取り上げ、諸理論と看護現象との関係について理解を深める。</p> <p>第1-3回 : 看護理論の意義と知識体系の構造：看護理論とは何か・なぜ必要か、看護のメタパラダイムや看護理論の範囲などの基本的理解を深める (福井)</p> <p>第4-5回 : 看護実践モデルと看護理論：A.バンデューラー セルフ・エフィカシーの理論を通し、実践への活用を考察する (谷川)</p> <p>第6-7回 : 看護実践モデルと看護理論：K.コルカバの理論を通し、コンフォート理論の実践への活用を考察する (出貝)</p> <p>第8-9回 : 看護実践モデルと看護理論：危機理論を背景とした、DC.アギュララの危機問題解決モデル、SL.フィンクスの危機モデルによる実践への活用を考察する (鳴井)</p> <p>第10-11回 : 看護実践モデルと看護理論：人間関係論J.トラベルビー、HE.ペプロウの理論を通し、患者－看護師人間関係構築のプロセスを考える (清水)</p> <p>第12-13回 : 看護実践モデルと看護理論：J.ワトソン、MM.レイニンガー、M.ニューマンの理論を通し、ケアリングの実践への活用について考察する (福井)</p> <p>第14-15回 : 文献や実践からの理論生成－概念分析とその適用 (角濱)</p> <p>*授業方法：各回、授業内容に沿った課題のプレゼンテーションを行い、学生間・学生と教員間によるディスカッションで理解を深めます。授業の順序は変更の可能性があります。履修者決定後、お知らせします。</p>			
3. 教科書、参考書			
必要時、お知らせします。			
4. 成績評価方法			
<p>①各回の提出資料、プレゼンテーション、ディスカッション(70点)</p> <p>②レポート評価(30点)：各回の授業を参考に自分の興味のある看護理論1つを選択します (もしくは研究テーマに関する看護理論でもよい)。主たる評価の視点は、基本的なレポートの記載方法の他、事例や自分が経験した現象について適切に理論を用いて説明し、文献を用いて考えを深めているか、です。</p>			
5. 受講要件			
なし。			
6. 社会人学生に対する配慮			
講義の日時およびオンライン授業等は相談に応じる。			
7. その他			
<p>①担当教員に事前に連絡を取り、課題等プレゼンの準備をしてください。(初回授業は課題なし)</p> <p>②本科目は、対面による授業を基本とします。オンラインおよびオンデマンドによる授業を希望する場合は事前に教員に相談してください。</p> <p>③履修者決定後、Webexに「看護理論特論」のスペースをつくるので、初回授業前までに参加してください。</p>			